

東京五輪(ボート・カヌー)印旛沼へ誘致



県立印旛沼公園から見下ろした西印旛沼

印旛沼をスポーツの拠点に

去る2月23日、2020年東京オリンピック・パラリンピックのボート、カヌー(スプリント)の競技場とキャンプ地を誘致するため、板倉市長が東京都渋谷区の日本ボート協会および日本カヌー連盟を表敬訪問しました。

板倉市長は、訪問先において、印旛沼が成田から15km圏、東京都心から40km圏という好立地であること。

また、今回の誘致は、50年後、100年後を見据えたものであり、ボート、カヌー競技の拠点として、多くの人に印西市へお越しいただき、地域の活性化につなげたい。さらには、全国で水質が悪い湖沼として知られている印旛沼を、この誘致を契機に会場整備を通して、環境浄化にも取り組んでいきたいとの思いを強く伝えました。

これまでの経緯

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が示す、ボート、カヌー(スプリント)競技が開催される予定の「海の森水上競技場」に関しては、施設整備費用が巨額であること。さらに、海水が混じり、風が強吹き、また、カヌーの練習場が現地に無いことなどから、国際オリンピック委員会(IOC)との競技地決定の合意に至っていないことが分かりました。

板倉市長は、この事態を受け、「印旛沼」という選択肢があるのではないかと。国内のみならず、国外にも印西市を知ってほしい。また、印旛沼周辺自治体にとって、印旛沼の環境浄化は、かねてからの懸案事項の一つで

あることから、東京オリンピック・パラリンピックのボート、カヌー(スプリント)両競技のキャンプ地の誘致を進めていく中で、整備を通して、環境浄化につなげるとともに、地域の活性化につなげていきたいとの考えを示しました

なぜ、印旛沼か

●印旛沼は、東京都中央区晴海に整備される予定の選手村から40km圏に位置しており、東京都外で開催されることが決まっているバスケットボール競技会場のさいたまスーパーアリーナ(さいたま市)や、ゴルフ競技会場の霞ヶ関カントリー倶楽部(川越市)などと、ほぼ同じ距離圏にあること。

●成田国際空港から15km圏にあり、選手村に入らない競技役員や関係者、そして選手たちの家族らにとっても、非常に利便性が高いこと。

●印旛沼の水質は淡水であること。

●現在、競技の開催が予定されている「海の森水上競技場」近隣に設置されている気象庁設置の観測所のデータによると、年間の平均風速が4m台であるのに対し、印旛沼付近のデータでは、約2.5mとなっており、競技の上で懸念される横風の影響が少ないこと。

●5.29kmの広さがある西印旛

沼に競技コースが設置された場合においても、その広さを活かすことが可能であることなどが挙げられます。

誘致に対する市の考え方

市では、今後、「水上スポーツ100年の計」を提唱し、誘致活動を進めていきます。

「100年の計」とは、世界と日本のアスリートたちが鍛錬する場、さらには印西市民、子どもたちが雄大な印旛の自然の中で水上競技に親しみ、健康づくりにする場を整備することです。

この「100年の計」は、東京オリンピック・パラリンピックでの競技の「後利用」計画ではありません。この大会での印旛沼の利用は、「先利用」であるとの考えを持ち、これを推進するために、ボート・カヌー競技の練習場、艇庫、合宿所を整備し、両競技の日本における拠点となり、50年、100年にわたって、両競技の選手強化の基地を目指します。

また、東京オリンピック・パラリンピック競技の開催を契機

●位置図●



に、印西市は、「国際スポーツ交流」を推進してまいります。そして、市民と子どもたちには、自らスポーツに親しむとともに、世界・日本のアスリートをもてなし、世界に目を向け、国際社会の中に仲間をつくってほしいと願うものです。

誘致を検討している場所

印旛沼は、北印旛沼(6.26km)と西印旛沼(5.29km)に水域が分かれており、誘致を検討しているのは、西印旛沼の師戸地先です(右図参照)。

付近の高台には、県立印旛沼公園があり、西印旛沼を一望できる展望台からは、大景観を見下ろすことができます。また、沼の沿岸には、約3.7haの活用可能な市有地があります

今回の誘致が成功すれば、印西市は世界に目を向けた、水上スポーツの拠点として発展することが期待されます。市としては、今後、情報収集に努めながら、積極的に誘致活動に取り組んでまいります。

秘書広報課オリンピック・パラリンピック推進室(☎内線445、416)。